

(2) 学校、保護者及び旅行エージェントが班別自主研修に必要な情報に関する検討結果

○ 安心、安全に関する情報

修学旅行に際して、学校や保護者が最も重視するのが、旅行中の安全である。そこで、本調査では、生徒の京都滞在中の安否情報の提供をはじめ、安心、安全情報の発信方策について検討を行う。

○ バリアフリー情報の収集と発信

① 寺院・文化施設に対して、次の項目を調査

- a. 拝観料等の障害者割引の有無
- b. 車イス用トイレの有無
- c. 敷地及び建物内の障害物

調査結果は寺社・文化施設 60 軒

② 宿泊施設に対して次の項目を調査

- a. 車イスで利用可能なトイレの有無
- b. 車イスで通行可能な玄関
- c. 車イス対応が可能な客室の有無
- d. 車イスで利用可能な入浴施設
- e. 車イスで概ね利用可能な館内
- f. 車イスで利用可能な食事施設
- g. 聴覚障害者への筆談か手話による対応
- h. 視覚障害者のための点字案内

調査結果→76 軒のうち 62 軒が宿泊の受け入れ可能

- a. 車イスで利用可能なトイレの有無

→44 軒

- b. 車イスで通行可能な玄関

→55 軒

- c. 車イス対応が可能な客室の有無

→16 軒

- d. 車イスで利用可能な入浴施設

→42 軒

- e. 車イスで概ね利用可能な館内

→52 軒

- f. 車イスで利用可能な食事施設

→42 軒

g. 聴覚障害者への筆談か手話による対応

→39 軒

h. 視覚障害者のための点字案内

→14 軒

※62 軒のうち要介助者施設 54 軒

(3) 情報の効果的な発信方法の検討結果

上記(1)(2)で収集・分類した情報をホームページ上で効果的に発信するための方策

- ・ 車いすで回れる施設 (60 施設)
- ・ 多目的トイレ (102 施設)
- ・ ユニバーサル対応の宿泊施設 (62 施設)

○ 施設情報と地図のリンク

ホームページ上の寺社や施設等の情報と、地図とを相互リンクさせることにより、情報収集を容易にする。

○ テーマ別モデルコースの設定

班別自主研修の実施に当たり、日程やコース作りをサポートするため、テーマ別モデルコースの設定を検討する。

○ 障害者の利用に対するホームページの発信方法

- a. 色弱の方でも見分けられる配色でデザイン (※重度を除く)
- b. 文字の大きさは2段階に切り替え可能
 - ・ 文字大
 - ・ 文字小
- c. 音声読み上げソフトに対応したコンテンツ
基本的にテキストベースで構成し、見やすいが音声読み上げソフトに適応しない PDF ファイルは避けた。

○ 安否情報について、教師が携帯電話から入力することにより、ホームページ上で保護者が確認できるシステム (「京都修学旅行日記」) の構築

(4) 体験学習プログラムの発掘、開発に関する検証結果

本調査において、体験学習の受け入れに関心があるものの、様々な不安や課題があるため受け入れに至っていない、あるいは限定的に受け入れは

行っているもの、広く告知・発信することに抵抗感のある施設に対して、課題の抽出と課題解決のためのサポートを実施することにより、新たな体験学習プログラムの開発・発信が実現した。

課題① 広く体験学習プログラムを告知・発信すると、申込が殺到する恐れがあり、受入態勢が整えられない。

◆ 解決へのサポート

「〇〇日前までに電話で予約」「電話で確認してから申し込み」というふうに告知することにより、予約制であること、また事前に予約の空き状況の確認が必要であることを明確にすることにより施設側の不安感を払拭した。

◆ 結果

36施設中、11施設で承諾が得られた。

課題② 本業の休業日しか受け入れられない、又は受入日が不定期であるため、受入に踏み切れない

◆ 解決へのサポート

寺院や大学など、体験を本業としていない施設の中には、本業のスケジュールにより受け入れできない日が不定期に発生する。せっかく学生から申込をもらっても受け入れられないのは申し訳ない、との思いが働いているようである。

これに対しては、休業日を「寺の行事による」「大学が定める休日」「応相談」など、施設に応じて発信内容を変えることで、学生側にも誤解の生じないように配慮することで施設側の理解を得られた。

◆ 結果

施設の都合で受け入れを制限しやすくなり、42施設19施設の承諾が得られた。

課題③ 修学旅行生のマナーの問題から受け入れに消極的

◆ 解決へのサポート

過去に修学旅行生を受け入れた際、「こちらが熱心に説明しているのに全然話を聞かない」「予約をしたのに当日来ない（無断キャンセル）」など態度のよくない生徒が一部いたことが原因となり、現在、受入を行っていない施設がある。

これに対しては、京都市が作成するホームページや冊子に、修学旅行生へマナーを促す文言を入れることにより理解が得られた。

- ◆ 結果
20施設について理解が得られた。

課題④ 体験学習を新たに始めようと思うが、体験料金の設定が分からない

- ◆ 解決へのサポート
同種の体験施設について調査し、大まかな料金を教示した。
- ◆ 結果
1施設について承諾が得られた。

課題⑤ 体験学習を個別には受け入れているが、広く発信するつもりはない

- ◆ 解決へのサポート
体験学習については受け入れているものの、受入人数、営業時間等の内容は、学校の要望に応じてその都度決めることになっているため、広く発信するつもりはない、という施設があった。これに対しては確定できないデータを「応相談」とすることで、施設と学校の間の話し合いで決めることができるように助言した。
- ◆ 結果
26施設全ての承諾が得られた。

以上は今回の調査を通じて、新たに体験学習の受入が実現、又は広く告知・発信することに理解が得られた実績である。

一方で、学校や学生の熱意に応えたいのはやまやまだが、以下の問題により体験の受入が実現しなかったケースもあった。

- ・ 人員や設備など受入態勢がどうしても整わない。
- ・ 教育目的であり、学校や学生にあまり高額な料金を請求できないという配慮から、無償あるいは廉価にて実施する必要があるが、全く採算が取れない。
- ・ 体験が本業ではないのに、広く発信することにより「申し込みれば必ず体験ができる」と誤解されると困る。

5 まとめ

日本各地で、熱心な旅行の誘致活動が行われているが、修学旅行の事前学習に必要とされる観光・交通情報等についてワンストップで収集できる機能を有している都市はいまだ少数となっている。体験学習プログラムに至っては、十分網羅されていなかったり、数が少ないなど、さらに整備が遅れているのが現状である。

その中で、京都をモデル地に修学旅行生向けの情報収集を総合的にを行い、ホームページ等を制作することは、歴史都市だけでなく他の都市全般に対し、修学旅行生向け情報提供のモデルケースとなると考えられる。

特に、バリアフリーについては、旅館などではハード改修に多額の経費が必要となることから、消極的になりがちである。しかし、バリアフリーには大規模なハード改修は必ずしも必要なく、あまり経費の伴わないわずかな工夫と受け入れ側の意識の向上によって十分対応できるものであり、本調査を通じて多くの旅館が障害者の受入に前向きに対応してもらえることになった。これは、障害者団体とヒアリングしながら、旅館側にできることから始めてもらうという視点で調査を進めた結果であり、調査票の作成も含めた調査手法は他の都市でも応用が可能である。

また、学校や保護者が最も重視する「安心・安全の確保」については、携帯電話を活用して、生徒の様子を学校や保護者に簡便に発信できるシステムが構築できたので、先進事例として全国的な拡大も期待できる。さらには、修学旅行数の増加のためには、修学旅行生の親も一緒に参加できるようなプログラムなど、従前のプログラムにこだわらないプログラム作りをするなどチャレンジ性のある取組が必要と考えられる。

体験プログラムの発掘・開発については、これまで体験を実施していなかった施設からの調査を通じて、問題点の抽出を行い、課題ごとに解決の方策を施設側と連携して検討したことにより、多くの施設で体験プログラムが実現した。体験プログラムは、多様化するニーズに応えるためできる限り多くのメニューを準備する必要があるが、今回の調査で得られたノウハウを参考に他都市でも新たな体験プログラムの発掘・開発が期待できる。

これらの情報を含め、修学旅行に必要なあらゆる情報を体系的に分類し、効率的に発信するため、修学旅行生向けホームページ「きょうと修学旅行ナビ」(<http://kyotoshugakuryoko.jp>)を立ち上げたので、他都市がこれを参考に修学旅行サイトを作成することができ、各都市の魅力を生徒や教師、旅行会社へ発信することにもつながると期待できる。

また、このうち体験プログラムについては、他の自治体の参考となるよう、冊子にまとめた。（修学旅行生のための体験学習ガイド「体験『京』発見」）

